

# 47期生(1年)北近江文化学科 郊外学習一覧表

[北近江 Top 戻る](#)

月	日	曜日	テーマ	講師	会場
10	28	火	古地図で訪ねる北近江 <a href="#">岩脇蒸気機関車避難壕</a>	松井 善和	彦根キャンパス PM 米原市郊外学習
11	7	金	古地図で訪ねる北近江 <a href="#">八幡山ロープウェイ</a> 近江八幡市立図書館	松井 善和	近江八幡市郊外学習

# ◆◆◆岩脇蒸気機関車避難壕 見学◆◆◆



**いをぎ 岩脇蒸気機関車避難壕 戦争遺跡**  
(米原市指定文化財)

この蒸気機関車避難壕(列車壕)は第2次世界大戦(1939~1945年)の末期に、米原駅の蒸気機関車を敵国の爆撃から守り、物資と兵員の輸送確保のために、運輸省鉄道総局が緊急秘密工事として進めました。おもに朝鮮人労働者の手で削岩機、ツルハシ、スコップ、ダイナマイト、トロッコなどを使って2本のトンネルが南北に掘削されました。

東側のトンネル(長さ130m)は貫通しましたが、西側のトンネルは中央部を残して貫通していません。危険な上下2段工法で掘られています。穴の大きさは機関車を入れるには不十分な状態です。また線路も敷設できないまま終戦とともに工事は中止となり、姿

戦時中に機関車を敵国から爆撃から守り、物資と兵員の輸送確保のために秘密工事として避難用トンネルを建設始めたが、終戦後、中止された。そのため、トンネルは完成せず、貫通していない。

**蒸気機関車避難壕**

ここに存在する二つの洞窟(左側は奥行き五メートル止め、右側は三〇メートルで貫通)は、太平洋戦争(一九四一年~一九四五年)末期に日本の輸送の大動脈である東海道線及び北陸線の列車を引く張る蒸気機関車を連合国軍の空爆から守るために掘られた防空壕跡です。

この岩脇山は岩盤が固くその上当時は物量が乏しく、火薬、スコップ、ツルハシ、トロッコなどの手作業のため難工事であったことがうかがえます。しかしながら、完成することなく終戦となったが、作業に従事した人達の汗と涙の結晶である防空壕跡が、長い間ごみ捨て場として放置されたままになっていました。

そこで「岩脇まちづくり委員会」では戦争の悲劇を風化させないために戦争の遺跡として保存するため平成二〇年十月から平成二十一年八月にかけて整備したものです。

平成二十一年八月  
岩脇まちづくり委員会



**善光堂縁起**

推古天皇(五五四年~六二八年)の御代に信濃の国(長野県)に本多善光という熱心な佛教信者がいました。ある夜、難波の堀にさんさんと輝く三尊の佛像が「善光々々」と呼んでおられる夢を見ました。善光がその夢のお告に従って難波の堀を探しますと、水中に三尊の佛像を発見しました。信濃の国に奉持しようとして湖を渡り朝妻の港につき中仙道に向う途中、風光明媚な当地で休息致しました。この三尊像を岩上に安置し、しばらく仮眠していると、我業生に佛法を弘通し極楽浄土へ導かため、この岩窟にとまらん」との御佛の声に夢を覚えました。

この不思議を土地の有志に告げ小さなお堂を建て、佛像を安置し善光は三尊佛を背負って信濃の国へ旅立ちました。その後この善光堂に対する近任の信仰は高まり、無病息災、家内安全、諸願成就を祈願する人々は絶えません。善光堂の名は実にこの本多善光の名からつけられたものです。

その後、天台宗慈覺寺の慈覺僧正巡錫の際、石佛を刻み納められました。

[戻る](#)

[北近江 Top 戻る](#)

# ◆◆◆近江八幡ロープウェイ ◆◆◆



# ◆◆◆ 八幡山から展望 ◆◆◆

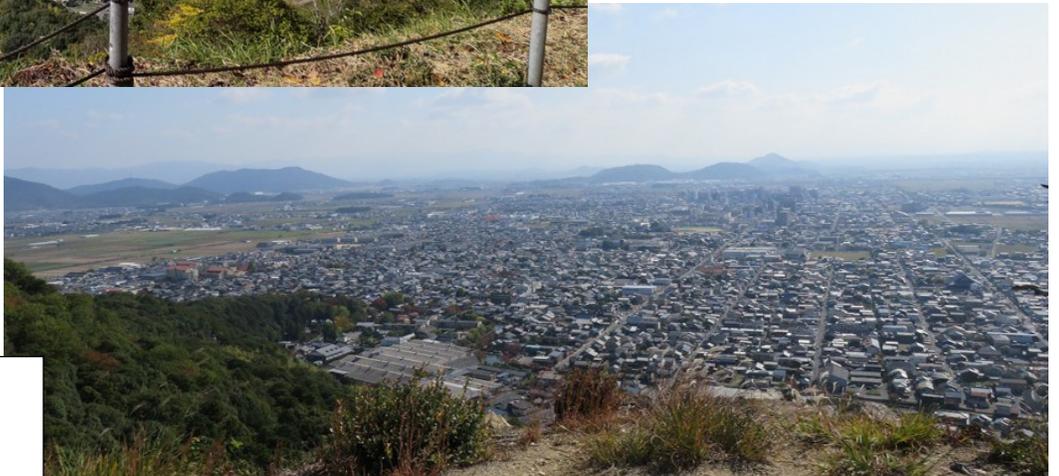
北の丸から琵琶湖・安土方面展望



西の丸から琵琶湖・比叡山方面展望



出丸から  
近江八幡市内展望



[戻る](#)

[北近江 Top 戻る](#)